

肝硬変について

文責：徳永 竜馬

肝硬変は様々な原因が引き起こす慢性肝炎により肝臓内の線維組織が増え、肝臓が硬くなる病気です。肝硬変になると進行に伴い、身体症状の出現や、肝細胞癌の発症、肝不全による生命維持困難、などが引き起こされるため、早期発見・早期治療が重要です。

大事なこと

- ✓ 肝機能異常(採血検査で分かる)と診断されたら原因を検索し、肝臓の線維化の進行を食い止める。
- ✓ 症状が出る前に治療を始める。肝硬変にしない。
- ✓ 肝硬変は身体症状がない代償期と症状が現れる非代償期がある。非代償期になると、黄疸、腹水、浮腫、吐血(食道静脈瘤の破裂)、肝性脳症などの合併症が現れる。
- ✓ 肝硬変の場合は、非代償期への進行を防ぐ治療と同時に、併存する症状の改善を目指す治療を行う。
- ✓ 肝硬変には肝細胞癌が併発するため、定期的な採血検査(腫瘍マーカー)、画像検査を行う。

・肝硬変の方は日本で約5万人(2018年)

・肝硬変の原因は、1位：C型肝炎(48.2%)、2位：アルコール(19.9%)、3位：B型肝炎(11.5%) (2018年)

※近年ではC型、B型肝炎性肝硬変が減少。原因としてアルコール、非アルコール性脂肪性肝炎が増加。

・肝硬変の原因

① 慢性肝炎を起こす疾患

- ・B型肝炎 ・C型肝炎 ・アルコール性肝障害(アルコール性脂肪肝) ・自己免疫性肝疾患
- ・非アルコール性脂肪性肝炎(NASH：ナッシュ) ・その他(特殊な肝疾患、薬剤性)

・肝硬変の場合に必要な検査

- ① 原因の検索(ウイルス性、アルコール性、非アルコール性脂肪肝、自己免疫、薬剤等)
- ② 肝機能評価：採血検査、採血結果を用いた肝線維化スコアリング
- ③ 肝線維化の評価、肝細胞癌の有無：腹部超音波(肝臓の硬さ：エラストグラフィ)、腹部CT、肝生検
- ④ 上部・下部消化管内視鏡検査(出血をきたす静脈瘤の有無、状況の評価)
- ⑤ その他、肝硬変に伴う合併症の評価

・肝硬変の治療

① 肝硬変および肝線維化の原因の治療：

ウイルス性：抗ウイルス薬、アルコール性：断酒、非アルコール性脂肪性肝炎：食事・運動療法
自己免疫性：免疫抑制療法 など

② 栄養療法：食事療法、肝不全用経口栄養製剤。

③ 難治性合併症の治療：肝性脳症、腹水、門脈圧亢進症、消化管出血、血栓症、腎・肺機能障害 など。

④ 症状対策：浮腫、皮膚掻痒症、筋痙攣 など

⑤ 発癌対策：早期発見(スクリーニング)、早期治療。

⑥ 肝移植

Tel：096-368-2896

E-mail：tokunaga.cl@gmail.com

ホームページ：https://www.tokunaga-cl.jp



内科
とくなが胃腸科クリニック
外科